

H30災害に備える支え合いのチカラ ご近所力で防災を 参加者アンケート

当日参加された約200名の参加者を対象としたアンケート調査の結果です（回答者132名）

（１）性別・年齢を教えてください。（あてはまるもの、それぞれに○）

1. 男性

2. 女性

1. 40歳未満

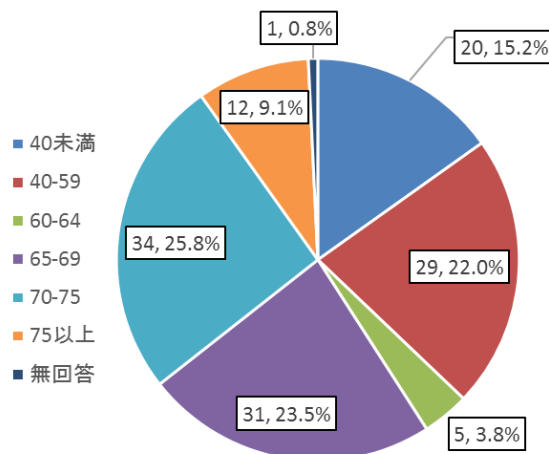
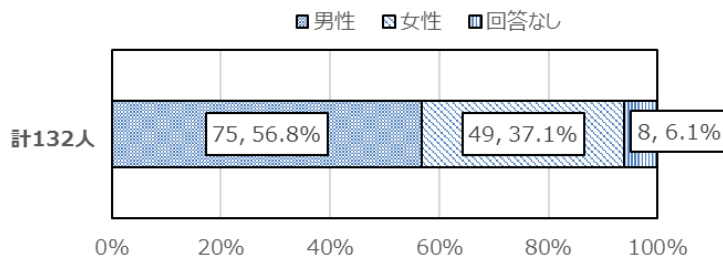
2. 40～59歳

3. 60～64歳

4. 65～69歳

5. 70～75歳

6. 75歳以上



（２）地域とのかかわり方について。（あてはまるものに○・複数選択）

1. 自治会長

2. 自治会防災担当または防災リーダー

3. その他自治会関係者

4. 民生委員

5. 医療及び介護関係者

6. 一般市民

7. その他（ ）



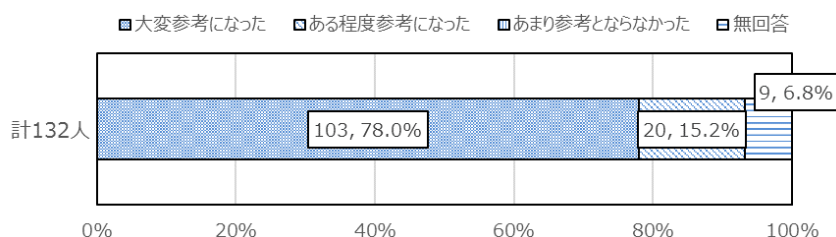
（その他の回答）流山市手とつなぐ親の会・障害者の保護者、健康づくり推進員、介護度重度化防止推進員
災害ボランティア、ボランティアサークル、聴覚障害者、流山オンブズマン、流山デフ協会防災担当、手話サークル員

（３）今回の内容は、満足のいくものでしたか（１つに○）

1. 大変参考になった

2. ある程度参考になった

3. あまり参考とならなかった

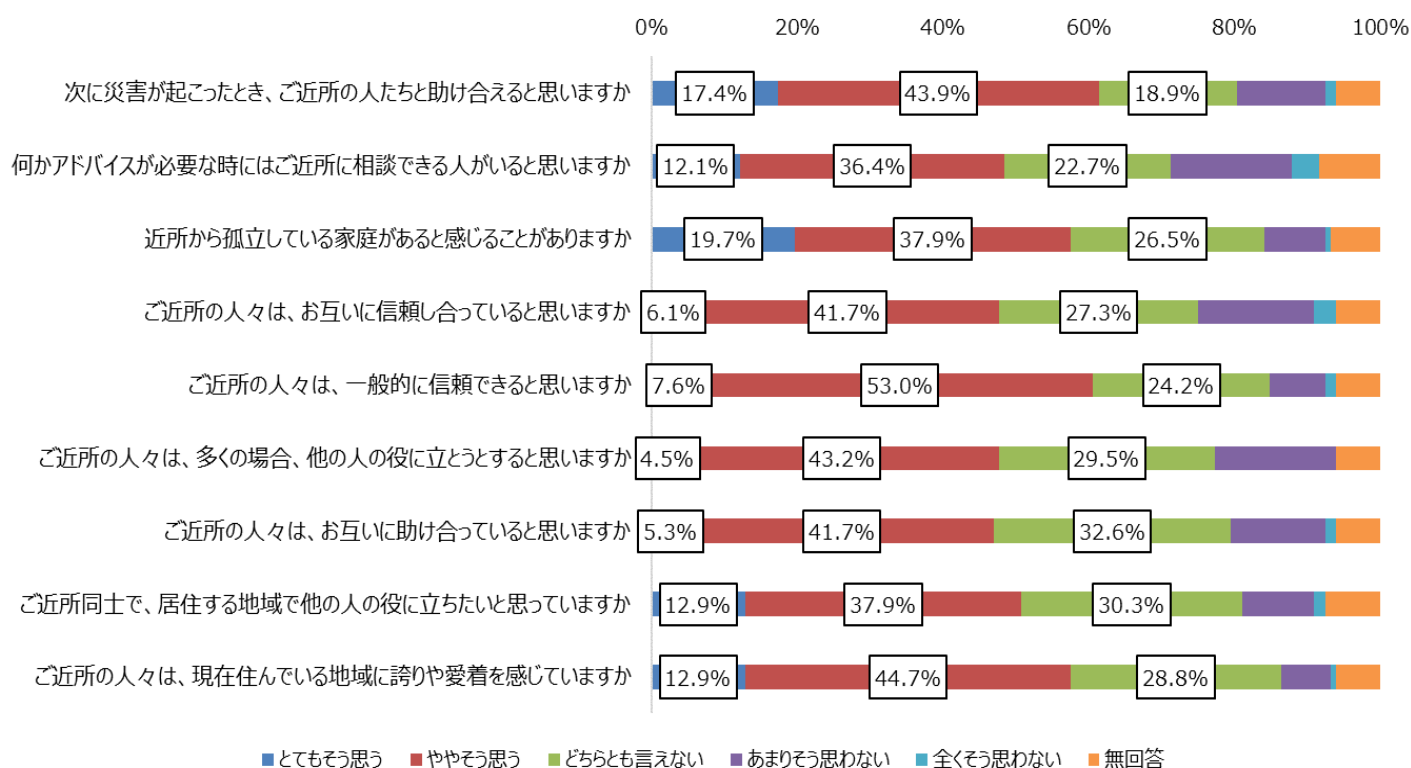


(4) 今後、防災・支え合い活動に関して知りたい内容がありますか。(あてはまるものに○)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 女性や子どものための防災セミナー | 2. 防災資機材や AED 取扱い訓練 |
| 3. 避難所の運営方法 | 4. 災害時の医療や福祉サービス |
| 5. 地域での見守り・支え合いの取組み事例 | |
| 6. その他 (_____) | |

今後の内容		女性や子どものための防災セミナー	防災資機材や AED 取扱い訓練	避難所の運営方法	災害時の医療や福祉サービス	地域での見守り・支え合いの取組み事例
全件		28	11	46	49	68
内訳	自治会長	5	3	2	5	9
	自治会防災担当または防災リーダー	4	3	5	3	9
	その他自治会関係者	4	1	7	9	13
	民生委員	3	0	7	6	16
	医療及び介護関係者	1	1	2	6	4
	一般市民	★ 12	5	★ 18	★ 16	11

(5) お住まいの地域の住民同士の支え合いについて、次の1から10の項目に対してどのように感じていますか。(1から5のうち、あてはまるもの1つに○)



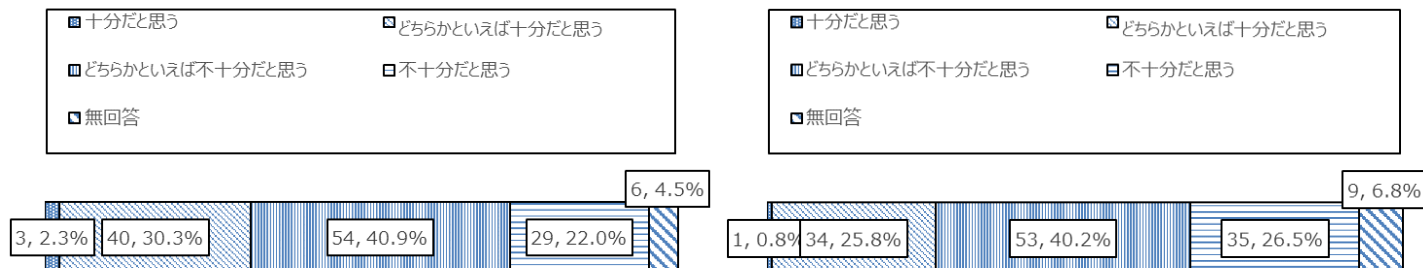
(6) 地震などの災害に対する備えが十分だと思いますか。(あてはまるもの全てに○)

お宅・自分の家では、

- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 十分だと思う | 2. どちらかといえば十分だと思う |
| 3. どちらかといえば不十分だと思う | 4. 不十分だと思う |

地域・自治会では、

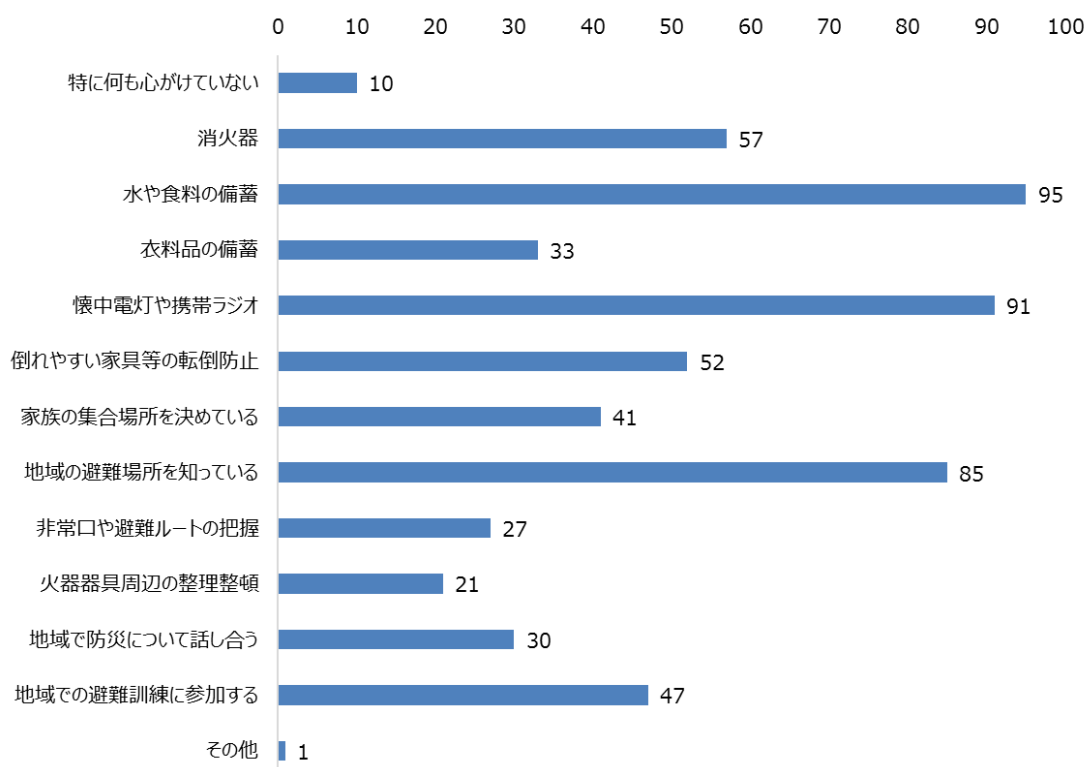
- | | |
|--------------------|-------------------|
| 1. 十分だと思う | 2. どちらかといえば十分だと思う |
| 3. どちらかといえば不十分だと思う | 4. 不十分だと思う |



(7) あなたのお宅では、防災や支え合い活動に関する取組みを行っていますか。

(あてはまるもの全てに○)

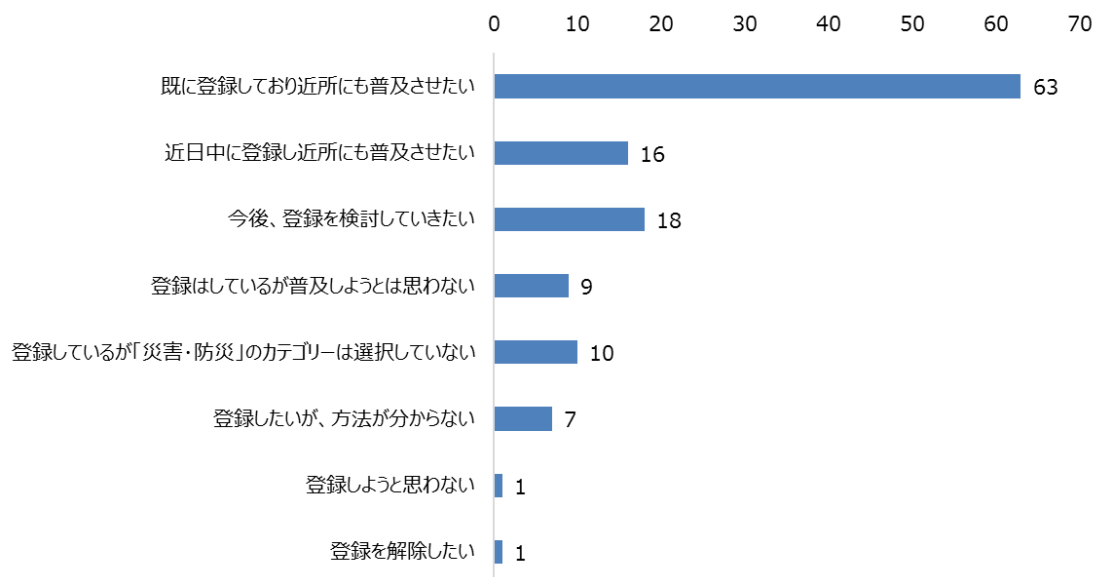
- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 特に何も心がけていない | 7. 家族の集合場所を決めている |
| 2. 消火器 | 8. 地域の避難場所を知っている |
| 3. 水や食料の備蓄 | 9. 非常口や避難ルートの把握 |
| 4. 衣料品の備蓄 | 10. 火器器具周辺の整理整頓 |
| 5. 懐中電灯や携帯ラジオ | 11. 地域で防災について話し合う |
| 6. 倒れやすい家具等の転倒防止 | 12. 地域での避難訓練に参加する |



(8) 流山市では、災害や防犯・環境情報など緊急時に役立つ情報を「流山市安心メール」で提供しています。「流山市安心メール」の登録状況及び今後の活用についてお伺いします。

(あてはまるもの全てに○)

- | | |
|--|---|
| 1. すでに登録しており情報を共有できるように
ご近所の方にも普及させていきたい。 | 5. 登録はしているが、「災害・火災」の
カテゴリーの選択はしていない。 |
| 2. 近日中に登録し、ご近所の方にも普及させたい。 | 6. 登録をしたいが、登録の仕方がわからない。 |
| 3. 今後、登録を検討していきたい。 | 7. 登録しようと思わない。 |
| 4. 登録はしているが、普及しようとは思わない。 | 8. 登録を解除したい。 |
- ※. その他 (_____)



(9) 防災の取組み、支え合い活動などについて、課題、ご意見などご自由にお書きください。

ペットの防災についても話を聞いた。今回の内容は、事実に基づいて勉強になった。とても良かった。

約2年前から、18名程で週2回、支え合い活動を行っている。問題点は、支えられたい人が、支え合い活動を行っており、一向に若い人のボランティアへ広がらない。辛抱強くしかないのか。鍵屋先生の話は、大変参考になった。

災害が起こることを前提にして①まずは、自宅の防災取組みをしっかり対応していきたい。②その後、地域の防災の関わりについても模索したい。自分が地域の中で役立てる何かがあると思う。

市とコミュニティ(自治会等)との連携が大事というが、具体的に文書や市の活動等で示されているのでしょうか。総合防災訓練は、年一回イベントとしては立派だが、市関係機関・民生委員と連携して、実際の災害を想定した内容のものを別に、教育・改善すべきではないでしょうか。

・自治会やその地域で災害時に力を貸して頂ける、又は、役に立ちたいと思っている方が登録できる仕組みを作るとよいと思います。(仕事でのキャリア・技術を持っている方の力を災害時に発揮できる仕組み作り)・街並みにより、その地域ごとの特性があり、違いがあるので、各地域に合った防災対策が必要と思います。(例えば、マンションの多い地域、戸建住宅地で、災害の状況は違うので)・地域によって、高齢化率も異なり、対策も変わってくるだろう。自助・近助・共助・公助の自助・近助への対策は、地域に委ねられるが、高齢化が進むと難しくなる。

・流山市のナマハゲ台帳の充実と有効利用をもっともっとと思った。(個別支援計画等)

・自治会により、活動に温度がある。

・流山では、災害が起こらないと決めつけているところがある。

・こわいもの体験等、何か刺激が必要ではないか。

とてもわかりやすい講師の説明で良かったです。ぜひ、自身の通所介護事務所や地域でも、積極的に取り入れていきたいです。
災害発生時の認知症高齢者(地域住民及び他地域の住民)を見守る具体的な仕組み(特に身元不明者)について、制度化している事例をご教示頂きたい。実際に、こういった事案が発生したが、どうしてもなく家族が不安に陥ってしまって、申し訳なかった。
コミュニケーションを日頃から、どうとっていくか。
ご近助力をどう育てていくかが課題
市は、「功遅」が多い。不測の事態は、「功遅より拙速」でなければならない。人間は全て、この世の中で生かし生かされている事を正しく認識する事。だから、ありがたいの心と人を思う思いやりの心が生まれるのでは。人間は、決して一人では生きていけないのです。
福祉避難所等へ避難する際は、必ず手話通訳・要約筆記の配備をお願いしたい。私自身(ろう者、聴覚障害者)ですので、情報保障が必要です。
防災の取り組みは、自治会単位で実行してほしい。
①避難所の表示をわかりやすくする必要がある。②自治会等の地域単位での避難所運営訓練が必要。
私の自治会では、シニアの方を中心に、とても良いコミュニケーションや支え合いがあると思います。しかし、友人の話を聞くと、南流山地域では賃貸住宅を中心に自治会費を天引きされているが、回覧がない、自治会がない、との話も聞きます。意欲がある人もいるのに残念です。
今、防災の取り組みを検討しているが、なかなか時間がとれない。任期中には何とか動き出したい、と副会長と話している。
市の出前講座をお願いして、地域の皆さんに意識向上に努めたい。
地域の自主防災組織を今後検討していく予定。立ち上げについてフォローを希望。
わかりやすい講演、とても役に立ちました。「備えあれば憂いなし」自治会で話し合いの場を持ち、話し合いをしていきたいと思います。早速3日分の食料を用意します。
自治会で「支え合い活動」と「災害時の要援護者活動」を推進中だが、本日の公演で「近所力」の必要性・重要性が明確になり、更に活動を活性化していきたいと思いました。
自治会活動と市より委託されている支え合い活動が連携されていない。別々の活動になっており、個人情報問題もあり、不明瞭なところが多々ある。災害時には、自治会活動では具体的に対処できない。
ボランティア活動の参加者が、毎回同じ顔ぶれで、一般に防災意識は高くない。また、高齢者がヘルプを必要とする人が増えつつあるが、一方で支援(サポート)を提供しようとするボランティアは限定的だ。その為、昼間は仕事や業務で不在の人が多く、いざという時に、支援側の本部の設営や具体的なサポート活動が、マニュアル通り実施できるかは不安である。また、ヘルプを必要とする人より、自治会や防災会に、その希望をあらかじめ通知してもらってないと、安否確認等が円滑に進まない。個人情報の問題もあり、日頃から誰がどう接触すればいいかが見極めにくい。あらかじめ、必要とする人に対してのみ、迅速な対応が可能となると考える。
・自主防災組織と体制作りを行いたいが、指導していただける方がほしい。完成するまで指導をお願いしたい。 ・支え合い活動について、民生委員・社会福祉等と自治会が一体となる活動をする為に、行政でリードしていただきたい。
支え合い活動中に、ケガをした時、保険はありますか。
課題は、山積み。「自分は大丈夫」は、ない。重ねて学習・訓練によって、習慣化する。初めてのこと・急なことは、できない。これらをこれからの防災活動で肝に銘じる。

大変勉強になりました。私は、4年前に防災士の資格を取得し、様々な研修等を受けてきました。また、東北大震災時、災害ボランティアで相馬市や石巻市へ行き、炊き出しや避難所の運営等を行ってきました、現在は、マンションの防災理事に自ら手を挙げて、昨年初めて団地でマンションの合同避難訓練を行った。今後大事なことは、各地区や自治会に防災士等の防災リーダーが配置されていることが重要。また、市の地域防災計画では不十分であり、地域ごとに地区防災計画を策定し、普段から訓練を行うことが重要。自助・共助の意識を高めることが大事。
・防災無線が全然聞こえず。早急に改善や別の方法での周知を検討いただきたい。 ・主要道路が狭く、災害発生時は不安。・自治会での防災の取組みには、限度があり、市での例示等をお願いしたい。
自治会単位の地図を貼り、近所同士の助け合いに活用しようと準備中。
関連機関と連携して、更なる改善をやっていきたいと思います。
・避難所運営のシュミレーション不足 ・自治会でもっと頑張るべき ・今日のような講演会を各自治会で、できないか ・流山市防災リーダーに権限を与え、地域で訓練させる体制
先月、八木北小学校で防災訓練を行いました。狭い体育館に地域住民約 700 名が集まりました。訓練なので、あわてた様子は見られませんでした。これが本当の災害時の避難だったらと思うと、「落ち着て行動できるのか」「本当に大丈夫なのか」との疑問がわきました。このことから、改めて普段からの準備や行動が大事だと思いました。
防災の取組みは、地域の協力が不可欠だと思いました。被災地について、他人事と思わず、対策の取組みに生かすのが大切だと思いました。地域のつながりは、防災のみでなく、健康で幸福な社会につながると思いました。
福祉関係の仕事をしています。利用者のことは、気になりますが、いざ被災した時、家族・子供を優先してしまうと思います。どのように動くのがよいのか知りたい。
何回もやって身につけたい。自治会では、全く支え合い活動が進んでいない。地区社協だけで、外観見守りをしている>(75 歳以上の独居者限定)
(大型)マンションでの防災活動
一番大切なのは人間関係ということが身にしみました。本当にどんなことでも人間関係が何よりと思います。地域の皆さんとの出会いに感謝したいです。
一時保育の方が講演の間、娘をずっと抱っこしてくれて大変助かりました。
参加者が年配の方が多く、乳児や幼児がいる方が少なかった(ほとんど居ない?)ように感じたので、ご近所も巻き込んで参加したいなと思いました。
先生の話聞き防災意識が高まりました。また障害をお持ちの方の話聞く事ができ、私にとっては災害時に関わらず普段からの意識が変わる貴重な話だったので、聞く事ができてとても良かったです。講習会での保育は本当にありがたいので、ぜひ今後もお願いしたいです。次回は小さい子を持つ家庭向けの災害時のポイントなども聞けたら良いと思いました。
先生の話は大変参考になりました。もっと多くの人に聞いて欲しかったです。福祉事業者との連携やケアプランの取組などをもっと推進して欲しいです。